

ブラジル金融政策（2020年6月）

0.75%ポイントの大幅利下げ

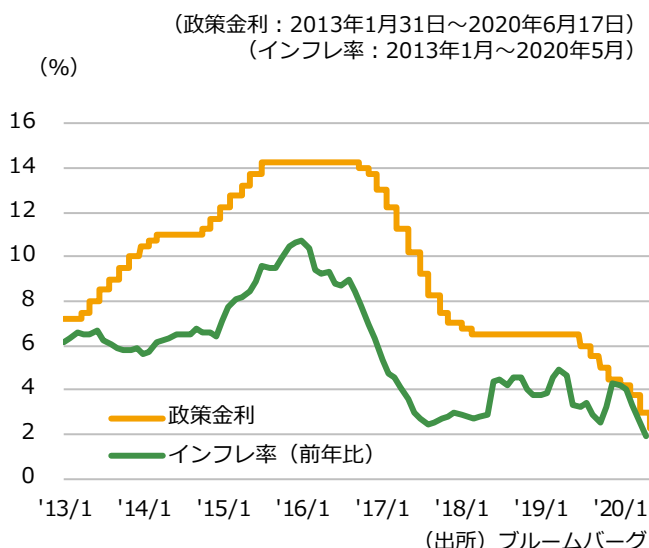
2020年6月18日

景気の落ち込みに対して大幅利下げで対応

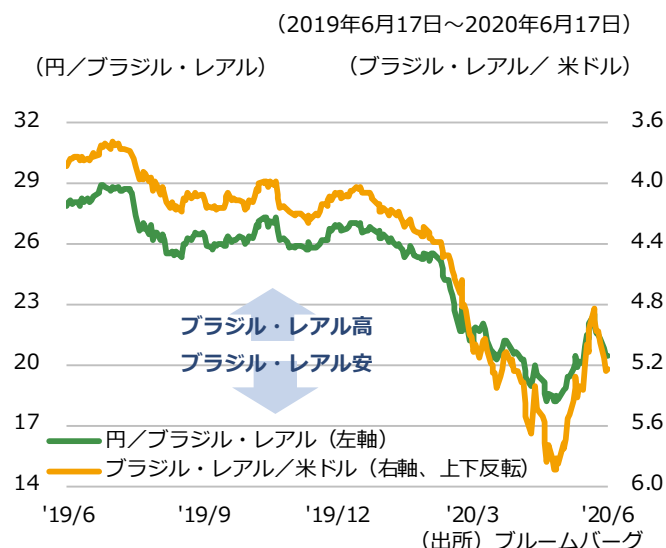
ブラジル中央銀行は6月17日（現地）、全会一致で政策金利を3.00%から2.25%に引き下げました。中央銀行は前回会合で追加利下げを示唆しており、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動への影響を和らげるため、8会合連続となる利下げを実施しました。声明文では、新型コロナウイルスが世界経済の著しい景気減速を引き起こし、ブラジル経済も想定以上に景気が落ち込んでいると述べられています。また、インフレ見通しについては前回会合から下方修正しており、中央銀行のインフレターゲットの下限を下回ると想定しています。次回の金融政策については、追加利下げの可能性に言及しつつも、利下げ余地は小さいとの見方を示しています。

足元のブラジルでは、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、実体経済への悪影響が懸念されています。また、感染拡大に対するボルソナロ大統領の責任を問う声や閣僚の相次ぐ辞任などから政治不安の高まりも懸念されています。しかし、急落した原油価格の底打ちや経常収支の改善基調などから、最安値を更新していたブラジル・レアルは反発をみせています。また、潤沢な外貨準備高を有しており、対外ぜい弱性が低下していることはブラジル・レアルの下支え要因になると期待されます。それでも目先は、感染拡大が収束するまでの時間軸や経済への影響などの不透明感が依然として強いため、当面は、感染状況や実体経済への影響、そして政権運営に注意を払っていく必要があると考えます。

政策金利とインフレ率の推移



為替の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。